平成28年度事務事業実績評価表

政策No.	3	施策No.	33	事業No.	10 - 5

事務事業名	福祉教育推進補助事業	会計	一般会計	実施区分	継続
		事業種別	政策	開始	S55
				終了	

H29作成課等名	福祉課	H29係等名	地域福祉係	H28担当課等名	福祉課

基本計画上の位置づけ			
	政策	3	健やかに安心して暮らせるまちづくり
	施策	33	共に支えあう地域福祉の推進

目的		
	対象(誰・何を)	①保育園・幼稚園、小・中学校、高校 ②児童及び生徒補助金支出先:飯田市社会福祉協議会
	意図(どういう状態にするか)	福祉体験やボランティア体験を通じて福祉課題を共有化し、人権を尊重する心を育むと共に、お互いに助け合う共生の風土づくりを高める
	向上させたい上位施策の成果指標	近隣で支えあいができている市民の割合(%)

対象指標	指標名及び単位	28年度数値
	市内の小・中学校、高校の数	33
	市内学校の児童及び生徒数(人)	12251

目標	種別	指標名及び単位	27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度実績	備考(指標変更など)
	成果指標	市内の小中学校、高校のうち、福祉活動実践校及び出前福祉講座実施校の割合(%)	60	61	60	57.6	
	成果指標	福祉活動及び出前福祉講座実施校で行った福祉活動の延べ参加児童・生徒の数／市内学校の児童・生徒の数(%)	60	31	60	28.9	
	定性目標						

事業概要

児童生徒が福祉体験やボランティア体験を通じて、社会福祉の理解と関心を高め、日常生活の中に相互扶助・社会連帯の思想を浸透させると共に、ボランティア活動の振興や福祉の仕事への理解促進を図る。
そのために、多様な学習機会、人材、情報、機材などを提供し、活動を支援する。
福祉施設との協働により、夏休みを利用したボランティア活動体験の場を与え、福祉問題を考える機会を与えると共に、将来の福祉の担い手としての意識啓発と職業選択のきっかけづくりとする。
年間事業計画策定の段階で、学校教育課、学校担当者や福祉施設、ボランティアの積極的な参画が得られるよう工夫。
ボランティアセンターを運営する社協への補助事業

28年度事業内容

事業内容	名称	活動指標
1 福祉教育活動事業 各学校の生徒会やサークルが主体的に取り組む福祉活動(高齢者との交流、ボランティア活動等)に対し助成 2 出前福祉講座 学校でのクラブ活動、授業等で行う福祉体験学習に専門講師の派遣 3 福祉施設協働事業 サマーチャレンジボランティア事業、夏休みボランティア体験の実施	1 福祉教育活動事業の学校数 2(1)講座実施校数 (2)講座開催数 (3)講師派遣人数 3 参加者数(延べ)	1 10校 2(1)13校 (2)73回 (3)168人 3 708人

事業コスト	27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足
事業費計(千円)①	549	465	465	0	
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
一般財源	549	465	465		
人件費計(千円)②	358	0	0	0	
正規職員所要時間	100				
臨時職員所要時間					
総事業費①+②	907	465	465	0	

事業内容・目標達成状況の振り返り	出前福祉講座・サマーチャレンジ・福祉教育活動校の実施について増加傾向にあり、義務教育・高等教育の段階から福祉についての体験学習ができている。

改革改善の考え方		
	①問題点	実践校から活動支援に変更したので、もっと学校の理解により、活動を広める。
	②改革提案	福祉活動実践校として指定するのではなく、学校側で福祉教育を行う際に講師の派遣や資材の提供等をスムーズに行える体制に変更する。